

登録コード	ASP00500	開講年度	2026				
授業科目	地域環境計画学特論				担当教員	上原 三知	
英文授業名	Advanced Lecture in Regional Environmental Planning				副担当	内川 義行・三木 敦朗	
単位数	2	講義期間	前期(集中)	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	1年次生
講義室	農学部 1 2 番講義室		授業形態	講義	備考		
信大コンベンション	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	【授業の達成目標】	
	2026ASカリ, 2025ASカリ, 2024ASカリ, 2023ASカリ						
	【専攻】生命科学, 食品科学, 食料生産および環境の保全と修復などの分野における幅広い体系的な基礎学力と実践的技術力とともに高い研究開発能力を修得している。				⇔	具体的な目標を1つは持てるようになる。	
	【専攻】農学分野で必要とされる情報収集・分析能力, 批判的思考力を有し, 農学分野での研究成果を発信できるグローバルな情報発信能力を有する。				⇔	海外への発信について取り組んでみる。	
	【2025年度以降のカリキュラム対象】【専攻】国際性と地域性に根差し, 環境と調和した持続的生産に関わる知識と技術を修得している。				⇔	具体的な社会問題の解決に向けた事例を理解する。国際的、地域性に根ざした事例についてレビューを行えるようになる。	
授業の概要	・本特論は中山間地及び地方都市において、農林業を営む環境、日常生活をおくる環境を対象に、土地利用、生活空間と緑地、農業、林業、景観に関する現状と課題を理解するため、各地の事例をもとにして実態を説明するとともに、課題を深く考察し解決方法を考える能力を養う。						
Contents:							
授業計画	第1回 (1日目): 本特論の目的と概要説明 (担当 上原) 第2回 (1日目): 地域景観と土地利用 (担当 上原) 第3回 (1日目): 景観の地域特性 (担当 上原) 第4回 (1日目): 景観計画手法とその活用例 (担当 上原) 第5回 (1日目): 総合的な景観計画に関する可能性 (担当 上原) 第6回 (2日目): 林業の経済史と山村問題 (担当 三木) 第7回 (2日目): 林野利用の諸形態と開発 (担当 三木) 第8回 (2日目): 森林計画制度と「新たな森林管理システム」(担当 三木) 第9回 (2日目): 森林の計画と「担い手」(担当 三木) 第10回 (2日目): 地域自然資源管理の計画・ガバナンスの課題 (担当 三木) 第11回 (3日目): 地域づくり計画を考える視点 (担当 内川) 第12回 (3日目): 農業生産基盤と計画 (担当 内川) 第13回 (3日目): 中山間地域における新たな土地利用 ―山地酪農― (担当 内川) 第14回 (3日目): 農村の生活環境整備 (担当 内川) 第15回 (3日目): まとめにかえて ―計画学について― (担当 内川) レポートの作成						
成績評価の方法	特論への参加姿勢と各担当教員が課すレポートにより総合的に評価する。						
成績評価の基準	秀: 90点以上、優: 80～89点、良: 70～79点、可: 60～69点、不可: 59点以下とする。						
事前事後学習の内容	各自、担当の教員の論文や事例報告などの原稿をWEBで入手し、事前事後学習に活用してください。						
履修上の注意	遅刻せず、欠かさず出席すること						
質問,相談への対応	授業後、随時対応する						
学生へのメッセージ	授業内容には難しい点も含まれるが、丁寧に説明する。元気に予習復習をすること。						
【教科書】	授業の性質により教科書は使用しない。						
【参考書】	授業の性質により教科書は使用しない。						